

【緑区】令和元年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年 9 月 4 日 午後 2 時 30 分 ～ 午後 4 時 00 分
場 所	緑区役所 会議室 3 A
出席者	<p>【 座 長 】 今野 典人 議員</p> <p>【議員：3 人】 鴨志田 啓介 議員、高橋 正治 議員、斉藤 達也 議員</p> <p>【緑区：26 人】 小野崎 信之 区長</p> <p>三瓶 一道 副区長</p> <p>室谷 洋一 福祉保健センター長</p> <p>市川 一弘 福祉保健センター担当部長 ほか区関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 30 年度 個性ある区づくり推進費 決算</p> <p>2 令和元年度 個性ある区づくり推進費 執行状況</p> <p>3 令和 2 年度 緑区予算編成の考え方</p>
発 言 の 要 旨	<p>議題 1 「平成 30 年度 個性ある区づくり推進費 決算」</p> <p>(区長・副区長説明)</p> <p>【災害に強いまちづくり事業】</p> <p>斉藤議員：地域 BWA について、基地局整備が完了して、その後どういう運用をしているのか。</p> <p>山田総務課長：区役所のほか、土木事務所と消防署にもタブレットを貸与し、それを随時持って現場に直行していただくという使い方をしてしています。画像を含む情報は LINE WORKS を利用して三者で共有しています。</p> <p>高橋議員：地域 BWA を使用する際のマニュアルや、利用訓練は行っているのか。</p> <p>山田総務課長：LINE WORKS とタブレットの使い方はマニュアルがあり、それに沿った練習のほか、普段の業務からタブレットを使っているということによってやっております。</p> <p>【交通安全対策事業】</p> <p>斉藤議員：スクールゾーンでの安全対策について、対策協議会等でもあちこちの話を聞かれていると思うのですが、どんな声が届いているのか。</p>

岩岡地域振興課長：6月ごろから各小学校でスクールゾーン対策協議会を開催させていただきまして、ガードレールの設置とかスクールゾーンの標示、その他、道路標示やカラーベルトなど、注意喚起の御意見を頂戴いたしております。

斉藤議員：信号機を付けてほしいという話も聞いているが、それにはどのように答えているのか。

川崎緑土木事務所副所長：信号の設置については神奈川県警の所管となりますので、現地確認を進める中で、難しいところに対しては、設置が難しい理由などを警察のほうからしていく形になっています。

鴨志田議員：歩行者への交通安全啓発の実施状況はどうか。また、自転車保険への加入についての説明は行っているのか。

岩岡地域振興課長：資料記載のとおり、さまざまな場所で交通安全啓発活動を行っており、その中で自転車保険の義務化についても周知を行っております。また、自転車の安全な乗り方やルールなどについて『みんなのサイクルルールブック』というガイドブックの発行を行いまして、啓発を行っています。

高橋議員：交差点での事故防止対策として、歩車分離の導入についてどう考えているか。

川崎緑土木事務所副所長：信号機の持つ役割としては、歩行者を円滑に渡らせるという部分と、車も含めた道路交通を適正に整理していくという、その2つが大きくあると考えています。幹線道路になりますと、渋滞を起こさないようにするための、車を流すために青信号が必要な時間と、歩行者を渡らせるために必要な時間があり、それがうまく配分できるようなところでは歩車分離ができるかもしれませんが、なかなか現実の交通処理を考えていく中においては、歩車分離にできない箇所というのが多々あるのではと思っています。

【暮らしの衛生推進事業】

斉藤議員：災害時に備えた衛生啓発事業について、状況はどうか。

村上生活衛生課長：緑区には22の地域防災拠点があり、29年度以降の3年間の間に大半の地域防災拠点で、訓練の中あるいは運営委員会の打ち合わせでペット防災の必要性についてお話しする機会を設けさせていただくことができました。

残りの拠点については、今はまだどうしてもペット防災のほうに手をつけるつもりはないという拠点もございますが、引き続き重要性

をお話ししていきたいと考えております。

【DV対策・児童虐待防止事業】

鴨志田議員：職員のスキルアップとは何を行っているのか。

久保田こども家庭支援課長：スキルアップ研修は年2回行っているのですが、講師は児童虐待防止に明るい精神科医の方でございます。さまざまな課題を抱える家族に対して、どのように地域や我々が支えられるかという観点で、精神科の方にお話を伺っています。

高橋議員：児童虐待防止について、現場としてどういう部分の強化が必要だと考えているか。

久保田こども家庭支援課長：地域の方のお力を借りてというような地域での支援というのは、やはりぎりぎり踏みとどまっている方を支えるというところから非常に大きいと思います。一方で、報道されるような深刻な事例になるものというのは、地域で支えられるというものではないと思います。そういったものは基本的には即座に児相なり警察が介入して、すぐに保護をするということをいかに迅速にできるか、というところがございます。ただ、その判断は一元的には児相しかできません。地域で支えるのか、保護に進むのかの判断は児相が一元的に対応していくほうが迅速性は高まるのではないかとと思いますが、ただ、地域と切れてしまう可能性もあるので、その辺は難しいとは思っています。

今野座長：区で重大案件と考えている事例でも、児相ではまだ対応しないことがあると思うが、その差は何なのか。

久保田こども家庭支援課長：児相のほうがケース数は当然多く、児相の相場感としてそれほど深刻でないと考えているものと思われる。

【みどり地域まちづくり推進事業】

斉藤議員：住民主体のまちづくり支援について、資料に記載されている4地区（山下、東本郷、十日市場、霧が丘地区）ほかの地区というのは具体的に動きがない状況なのか。

大塚区政推進課長：具体的になっているものは、今はこれだけという状況です。何かあれば我々のほうへ御相談いただいて、少し動いていくという形になると思います。

斉藤議員：最近、緑区で起業したいという相談をいただいたりしているが、区役所のほうに相談にくるケースはあるか。

大塚区政推進課長：他区でそういう相談があるということは少し聞いてい

ますが、緑区では具体的にそういったお話をいただいたことは私のほうではございません。

議題3「令和2年度 緑区予算編成の考え方」

(区長説明)

議題2「令和元年度 個性ある区づくり推進費 執行状況」

(区長・副区長説明)

【住み続けたいふるさと緑区事業】

斉藤議員：ふるさと緑区デザインマンホール設置事業の状況について伺いたい。

川崎緑土木事務所副所長：各小学校から手描きの絵が集まってきており、今、設置場所について職員で選定中です。

斉藤議員：各小学校区というか、その辺りに1カ所みたいな形か。それとも、何カ所かあるみたいな形か。

川崎緑土木事務所副所長：手描きで描いてもらったものについては、各小学校1カ所での設置を考えています。また、それとあわせて、50周年のデザインマンホールに関しては、駅前など目立つ場所で置けるようなところがあれば、設置していきたいということで準備をしています。

高橋議員：マンホールの材質は耐候性のあるものか。摩耗に対してはどうか。

川崎緑土木事務所副所長：表面はポリカーボネートで、紫外線等による劣化は無い耐候性のある素材になっています。耐摩耗性については、人通りの非常に多い場所では10年程度で劣化してきているという例はありますが、今回のものについてはそこまで早い劣化はないと考えています。交換についても視野に入れておく必要はあるかと思っています。

【市民活動パワーアップ支援事業】

斉藤議員：緑区にも国際交流ラウンジを設置すべきと考えるが、区としてどう考えているか。

小野崎区長：これから多文化共生を目指すことを考えますと、やはりこの辺の外国人への対応の強化は必要だと思っています。来年にはいろいろ調整はする予定でございますが、その必要性をどんどん訴えて

	<p>まいりまして、何とかいい方向に行くように我々も努めてまいりたいと思います。</p>
備 考	<p>(資料) 令和元年度第3回区づくり推進横浜市議員会議（緑区）次第</p> <ol style="list-style-type: none">1 平成30年度 個性ある区づくり推進費 決算2 令和元年度 個性ある区づくり推進費 執行状況3 令和2年度 緑区予算編成の考え方